

平成28年度事務事業総点検 評価シート

事業番号	546	所属	都市整備部公園緑地課公園整備係				起案者	酒井隆幸
事業名	公園整備事業						決裁者	榊原慶治
事業区分	☐	義務的	☐	経常的	☒	政策的	連絡先	0566-76-1111
							内線	2354
事務事業の 分類	☐	企画計画立案	☐	調査・研究	☐	規制、指導	☐	育成・支援・相談
	☐	内部管理	☐	広報・普及啓発	☐	徴収・収納	☐	補助・助成・手当・サービス給付
	☐	施設管理	☐	窓口、受付	☐	用地取得・処分	☐	検査・審査・監査
	☒	施設設計・建設	☐	イベント・講座	☐	現業業務	☐	その他

Plan【事業概要】

総合計画体系	第7次		3-1-2-1-5		予算科目	会計	一般会計	
	第8次		4-1-③			款	40	土木費
						項	20	都市計画費
						目	10	公園費
市長マニフェスト	☐	該当	☒	非該当	H28当初予算説明書該当ページ			241
実施計画	☒	該当	☐	非該当				
総合計画以外の計画								
根拠法令	無							
議会答弁	無							
陳情・市民要望	無							
実施方法	一部委託		委託先	民間企業				
実施期間	開始		平成 元 年度			終期	平成 年度 ☒ なし	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が				～になる			
	市民に憩いと潤いの場になる公園が				整備される			
事務事業の内容 (手段)	市民に憩いと潤いの場を提供する役割とともに、環境保全や防災、景観形成などの重要な役割を担う公園を計画的に整備します。 また、社会情勢の変化の中で、市民ニーズに応える公園整備が今まで以上に必要ですので、公園設計においては市民の意見を積極的に取り入れ、市民が愛着を持てる公園づくりを目指します。							
事務の内容	平成10年度より、公園設計段階において地域住民の参加によるワークショップ(公園づくり意見交換会)を実施し、市民ニーズを公園計画に反映し、愛着感を持てる公園整備を行っています。 平成21年度より、地域住民に植樹作業に関わっていただき、公園に対する関心を高めてもらうと共に樹木の大切さを感じていただくため、植樹祭を実施しています。							

Do【事業費(千円)、事業実績(活動・成果)】

年間事業費等推移	No	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
			実績	実績	実績	予算
年間事業費等推移	歳出	① 事業費 (千円)	92,705	9,907	494,476	73,900
		需用費				
		役務費			43	
		委託料	1,977		15,854	6,900
		使用料及び賃借料				
		負担金、補助及び交付金	800	823	823	
		その他	89,928	9,084	477,756	67,000
	②	人件費	14,490	10,080	11,970	6,930
		正規職員 (人)	2.3	1.6	1.9	1.1
		臨時職員人件費 (千円)				
	③	年間経費(①+②) (千円)	107,195	19,987	506,446	80,830
	歳入	④ 特定財源(市税等の一般財源以外) (千円)	84,500	0	102,000	18,500
		国庫・県支出金 (千円)	44,500		102,000	18,500
		受益者負担金 (千円)				
		その他 (千円)	40,000			
	⑤	一般財源(③-④) (千円)	22,695	19,987	404,446	62,330

平成28年度事務事業総点検 評価シート

活動実績	平成25年度実績	平成26年度実績		平成27年度実績		平成28年度計画		
	荒曽根公園(0.7ha)整備完了 桜井南公園(1.1ha)(桜井区画整理内)整備完了	1号公園(0.14ha)(南明治区画整理内)暫定整備		(仮称)明本公園基本設計 金政公園(0.17ha)(桜井区画整理内)整備完了 (仮称)明本公園用地買収		(仮称)明本公園実施設計		
成果	成果指標		単位	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	整備された公園	箇所	目標	97	97	98	98	
			実績	97	97	98		
	整備された公園	ha	目標	93.2	93.2	93.3	93.3	
			実績	93.2	93.2	93.3		

Check【事業評価】

(1)「事業の必要性」の検証・評価

(1)必要性	①行政関与の必要性	義務的な事務事業及び経常的な事務事業か ■ いいえ	→ □ はい	④「事業の必要性」の評価 必要性が高い ■ E 継続 ※2「改善の必要性」の評価へ
	②特定項目	□ 国・県・民間事業者等が同様のサービスを行っている □ 社会情勢の変化等により市民ニーズの必要性が低下している事業や市民ニーズを把握しておらずニーズが不明な事業である □ 該当する	→ ■ 該当しない	
	③第8次総合計画との関連性	第8次総合計画に体系付けられているか □ いいえ	→ □ はい	
	④「事業の必要性」の評価	☐ 廃止 必要性が低い ☐ D 廃止困難(必要性を再評価) ☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 年度		
⑤事業を廃止した場合の影響・廃止困難な理由など				

※④で、A～Dのいずれを選択した場合も、⑤は必須。

⑤記載後 A～Cを選択している場合 → Action【今後の方向性】へ

Dを選択している場合 → 2「改善の必要性」の検証・評価以降、すべて記載

平成28年度事務事業総点検 評価シート

(2)「改善の必要性」の検証・評価

(1)有効性	①目標に対する進捗状況	事業実施により意図した成果が得られているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 順調 ☐ 不十分 成果指標から見られるよう計画・実績が成果として出ています。		
	②成果向上の余地	今以上に成果が向上する可能性があるか検証し、判断の理由を記入 ☒ ない ☐ ある 現状で十分な成果をあげており、これ以上の向上が見込まれません。		
	③上位施策への貢献度	事業実施により上位の施策の実現に貢献しているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 高い ☐ 低い 緑の基本計画で市街化区域内の緑被地の確保量の向上に貢献しています。		
(2)効率性	①民間活力等の活用	外部委託や指定管理者制度の導入、NPO等の活用による事業実施が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 市が直接実施すべき事業であるため、委託等に馴染まないと考えます。		
	②事業費の削減	現在の成果水準のまま事業費の削減が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 既に事業費の削減が十分に行われており、これ以上の見直しが困難です。		
	③事業の効率化・簡素化	実施方法の見直しや創意工夫により、事業の効率化・簡素化の可否を検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 平準化して公園整備ができないため、効率化・簡素化は困難です。		
	④事務事業のスリム化	事務事業の統合や分割により、効果の向上を図ることができるか。できる場合は内容を記入 ☒ ない ☐ 統合 ☐ 分割		
		既存の事務事業		
	再編後の事務事業			
		(内容)		
		削減額見込(概算)		千円
(3)公平性	①事業規模・サービス水準	環境変化や他の自治体等との比較により、当市の事業規模やサービス水準の可否を検証し、判断理由を記入 ☐ 適正 ☐ 過大 ☒ 過小 公園面積が全国平均10.2㎡/人に対し、5.06㎡/人(H27)と低いです。		
	②受益者負担	受益者負担の適否を検証し、判断の理由を記入 ☐ ある ☐ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 ☒ ない ☒ 問題ない ☐ 検討必要 一般財源で実施することが適切であると考えます。		
「改善の必要性」の評価		☒ 有 ☐ 無(現状維持) ☐ 見直し ☒ 拡充 ☐ 縮小・統合 目標 32 年度		

平成28年度事務事業総点検 評価シート

Action【今後の方向性】

改善取組	課題	活動実績・成果・事業評価の内容を踏まえて記入			
		公園面積が全国平均比べ低いため、公園の不足している地域に公園整備をします。			
	改善取組	上記課題に対する平成28年度における改善取組			
		公園の不足している地元町内会等と調整を図り、公園候補地の選定を行います。			
主管課評価 (再掲)	事業の必要性		改善の必要性		
	必要性が低い	必要性が高い			
	☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 0 年度 ☐ D 廃止困難	☒ E 継続	☐ 見直し ☒ 拡充 ☐ 縮小・統合 ☐ 現状維持	目標 平成 32 年度	
評価の総括	事業の必要性が高いが、事業規模が過小であるため事業の拡充が必要と判断しました。				

平成28年度事務事業総点検 評価シート

事業番号	547	所属	都市整備部公園緑地課花とみどりの係				起案者	古庄朋子
事業名	堀内公園管理事業						決裁者	榊原慶治
事業区分	☐	義務的	☐	経常的	☒	政策的	連絡先	0566-71-2244
							内線	2353
事務事業の 分類	☐	企画計画立案	☐	調査・研究	☐	規制、指導	☐	育成・支援・相談
	☐	内部管理	☐	広報・普及啓発	☐	徴収・収納	☐	補助・助成・手当・サービス給付
	☒	施設管理	☐	窓口、受付	☐	用地取得・処分	☐	検査・審査・監査
	☐	施設設計・建設	☐	イベント・講座	☐	現業業務	☐	その他

Plan【事業概要】

総合計画体系	第7次		3-1-2-2-2		予算科目	会計	一般会計	
	第8次		4-1-⑨			款	40	土木費
						項	20	都市計画費
						目	10	公園費
市長マニフェスト	☐	該当	☒	非該当	H28当初予算説明書該当ページ			241
実施計画	☒	該当	☐	非該当				
総合計画以外の計画								
根拠法令	有	安城市都市公園条例						
議会答弁	無							
陳情・市民要望	無							
実施方法	全部委託		委託先	民間企業				
実施期間	開始		平成 4 年度			終期	平成 年度 ☒ なし	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が				～になる			
	堀内公園利用者が				安全で安心して楽しめる			
事務事業の内容 (手段)	指定管理者による公園施設(大型遊具含む)の点検・清掃・植栽等の維持管理、及び、有料遊具の運行・料金徴収等の運営を行います。							
事務の内容	有料遊具の運行、利用料金の徴収、施設の清掃・点検、夜間警備、樹木管理、鳥類の飼育等							

Do【事業費(千円)、事業実績(活動・成果)】

年間事業費等推移	No	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
			実績	実績	実績	予算
年間事業費等推移	歳出	① 事業費 (千円)	67,122	49,230	73,339	55,748
		需用費	9,929	0	71	3,000
		役務費	102	102	117	122
		委託料	41,507	42,507	43,048	47,552
		使用料及び賃借料	5,920	5,044	4,933	5,074
		負担金、補助及び交付金				
		その他	9,664	1,577	25,170	
	②	人件費	3,150	3,150	3,150	2,520
		正規職員 (人)	0.5	0.5	0.5	0.4
		臨時職員人件費 (千円)				
	③	年間経費(①+②) (千円)	70,272	52,380	76,489	58,268
	歳入	④ 特定財源(市税等の一般財源以外) (千円)	342	342	342	342
		国庫・県支出金 (千円)				
		受益者負担金 (千円)				
		その他 (千円)	342	342	342	342
	⑤	一般財源(③-④) (千円)	69,930	52,038	76,147	57,926

平成28年度事務事業総点検 評価シート

活動実績	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度計画			
	芝滑り:人工芝更新	バッテリーカー3台更新	都築弥厚生誕記念イベント	メリーゴーランド:ギヤードモーター修繕			
	バッテリーカー4台更新	観覧車:構造部材残存厚み測定調査	電動汽車:車輪軸探傷検査	メリーゴーランド:電気設備等修繕			
	下水道接続工事	ふわふわドームの新規管理	バッテリーカー1台更新	サイクルモノレール:車輪軸探傷検査			
	新美南吉生誕百年記念イベント		観覧車塗装塗替工事				
成果	成果指標	単位	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	苦情件数	件	目標	10	10	10	10
			実績	3	3	2	
	利用者数 (固定遊具・バッテリーカー利用数は除く)	千人	目標	420	420	420	420
			実績	346	399	401	

Check【事業評価】

(1) 「事業の必要性」の検証・評価

(1)必要性	①行政関与の必要性	義務的な事務事業及び経常的な事務事業か ☐ はい ☒ いいえ	☒ はい ☐ いいえ
	②特定項目	☐ 国・県・民間事業者等が同様のサービスを行っている ☐ 社会情勢の変化等により市民ニーズの必要性が低下している事業や市民ニーズを把握しておらずニーズが不明な事業である	☐ はい ☒ 該当しない
		☐ 該当する ☒ 該当しない	☐ はい ☒ いいえ
	③第8次総合計画との関連性	第8次総合計画に体系付けられているか ☐ はい ☒ いいえ	☐ はい ☒ いいえ
④「事業の必要性」の評価		☐ 廃止 必要性が低い ☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 年度 ☐ D 廃止困難(必要性を再評価)	
⑤事業を廃止した場合の影響・廃止困難な理由など			

※④で、A～Dのいずれを選択した場合も、⑤は必須。

⑤記載後 A～Cを選択している場合 → Action【今後の方向性】へ

Dを選択している場合 → 2「改善の必要性」の検証・評価以降、すべて記載

平成28年度事務事業総点検 評価シート

(2)「改善の必要性」の検証・評価

(1)有効性	①目標に対する進捗状況	事業実施により意図した成果が得られているか検証し、判断の理由を記入 ■ 順調 □ 不十分 平成26年度に行ったeモニターアンケートの結果から、市民の約7割が年1回以上来園されており、多くの方に利用されています。		
	②成果向上の余地	今以上に成果が向上する可能性があるか検証し、判断の理由を記入 ■ ない □ ある 平成28年度に大型遊具と3歳未満児専用空間の整備により、子育て世代が楽しめる公園として、より質の高い行政サービスの提供が可能となります。		
	③上位施策への貢献度	事業実施により上位の施策の実現に貢献しているか検証し、判断の理由を記入 ■ 高い □ 低い より快適で憩える公園を目指し、利用ニーズに応じた運営、管理を適切に取り組んでいきます。		
(2)効率性	①民間活力等の活用	外部委託や指定管理者制度の導入、NPO等の活用による事業実施が可能か検証し、判断の理由を記入 ■ 不可能 □ 可能 平成20年度より指定管理者制度を導入し、民間事業者の自主事業によるイベント開催やきめ細やかなサービスを提供しています。		
	②事業費の削減	現在の成果水準のまま事業費の削減が可能か検証し、判断の理由を記入 ■ 不可能 □ 可能 指定管理者によって管理運営を行っており、これ以上の事業費の削減は困難と考えます。		
	③事業の効率化・簡素化	実施方法の見直しや創意工夫により、事業の効率化・簡素化の可否を検証し、判断の理由を記入 ■ 不可能 □ 可能 指定管理者制度を導入し、事業の効率化を推進しています。		
	④事務事業のスリム化	事務事業の統合や分割により、効果の向上を図ることができるか。できる場合は内容を記入 ■ ない □ 統合 □ 分割		
		既存の事務事業		
再編後の事務事業				
		(内容)		
		削減額見込(概算)		千円
(3)公平性	①事業規模・サービス水準	環境変化や他の自治体等との比較により、当市の事業規模やサービス水準の可否を検証し、判断理由を記入 ■ 適正 □ 過大 □ 過小 他の自治体と同様に有料遊具が安価で楽しめる身近な公園として、親しまれている堀内公園においては、現状のサービスを継続する必要があると考えます。		
	②受益者負担	受益者負担の適否を検証し、判断の理由を記入 ■ ある □ 適正 □ 過大 □ 過小 □ ない □ 問題ない □ 検討必要 観覧車・メリーゴーランド・電動汽車は1人1回100円、サイクルモノレール・バッテリーカー・小型自動遊具は1人1回50円の有料遊具利用料金は他の自治体と比較して適正と考えます。		
「改善の必要性」の評価		☐ 有 改善の必要性 ☐ 無(現状維持) ☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 目標 年度		

平成28年度事務事業総点検 評価シート

Action【今後の方向性】

改善取組	課題	活動実績・成果・事業評価の内容を踏まえて記入 有料遊具を更新する際は、他の自治体と重複する遊具整備を行わない等、オリジナリティあふれる公園を目指して、子育て世代から高齢者世代まで楽しめるサービスの提供が必要と考えます。		
	改善取組	上記課題に対する平成28年度における改善取組 子育て世代が快適に遊べるよう授乳室の増設や遊具修繕を実施していき、来園者の増加に努めます。		
主管課評価 (再掲)	事業の必要性		改善の必要性	
	必要性が低い	必要性が高い		
	☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 0 年度 ☐ D 廃止困難	☒ E 継続	☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 ☒ 現状維持	目標 平成 0 年度
評価の総括	老朽化した施設においては必要に応じ更新・改修を行い、多世代が快適に楽しめる公園を目指していきます。			

平成28年度事務事業総点検 評価シート

事業番号	548	所属	都市整備部公園緑地課公園整備係			起案者	中西隆博
事業名	油ヶ淵公園整備事業					決裁者	榊原慶治
事業区分	☐	義務的	☐	経常的	☒	政策的	連絡先
							0566-76-1111
事務事業の分類	☐	企画計画立案	☐	調査・研究	☐	規制、指導	☐
	☐	内部管理	☐	広報・普及啓発	☐	徴収・収納	☐
	☐	施設管理	☐	窓口、受付	☐	用地取得・処分	☐
	☐	施設設計・建設	☐	イベント・講座	☐	現業業務	☒
							その他

Plan【事業概要】

総合計画体系	第7次	3-1-2-1-2		予算科目	会計	一般会計
	第8次	4-1-⑨			款	40 土木費
					項	20 都市計画費
					目	10 公園費
市長マニフェスト	☐	該当	☒	非該当	H28当初予算説明書該当ページ	241
実施計画	☐	該当	☒	非該当		
総合計画以外の計画						
根拠法令	無					
議会答弁	無					
陳情・市民要望	無					
実施方法	一部委託	委託先	行政関連団体			
実施期間	開始	平成 12 年度	終期	平成 35 年度	☐ なし	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が			～になる		
	安城市民を始めとして広域の住民が			「油ヶ淵水辺公園」を早期に利用できるようになる		
事務事業の内容 (手段)	近隣市で構成する整備促進協議会を通じ、公園整備の事業主体である「愛知県」に早期実現を促します。愛知県の用地取得に協力し事業推進を図ります。					
事務の内容	平成25年度より油ヶ淵水辺公園整備促進協議会において、国土交通省及び国会議員への要望活動を再開しました。					

Do【事業費(千円)、事業実績(活動・成果)】

年間事業費等推移	No	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
			実績	実績	実績	予算
年間事業費等推移	歳出	① 事業費 (千円)	143	189	189	190
		需用費				
		役務費				
		委託料				
		使用料及び賃借料				
		負担金、補助及び交付金	100	100	100	100
		その他	43	89	89	90
	歳入	② 人件費	5,670	4,410	5,670	6,300
		正規職員 (人)	0.9	0.7	0.9	1
		臨時職員人件費 (千円)				
		③ 年間経費(①+②) (千円)	5,813	4,599	5,859	6,490
	歳入	④ 特定財源(市税等の一般財源以外) (千円)	0	0	0	0
		国庫・県支出金 (千円)				
		受益者負担金 (千円)				
		その他 (千円)				
	⑤	一般財源(③-④) (千円)	5,813	4,599	5,859	6,490

平成28年度事務事業総点検 評価シート

活動実績	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度計画			
	幹事会(3回)、総会(1回)開催 愛知県、国土交通省及び地元国会議員へ要望書提出	幹事会(2回)、総会(1回)開催 愛知県、国土交通省及び地元国会議員へ要望書提出	幹事会(2回)、総会(1回)開催 愛知県、国土交通省及び地元国会議員へ要望書提出	幹事会(3回)、総会(1回)開催 愛知県、国土交通省及び地元国会議員へ要望書提出			
成果	成果指標	単位	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	用地取得率	%	目標	82.8	82.8	82.8	82.8
			実績	82.8	82.8	82.8	
			目標				
			実績				

Check【事業評価】

(1)「事業の必要性」の検証・評価

(1)必要性	①行政関与の必要性	義務的な事務事業及び経常的な事務事業か ■ いいえ	→ □ はい	④「事業の必要性」の評価 必要性が高い ■ E 継続 ※2「改善の必要性」の評価へ
	②特定項目	□ 国・県・民間事業者等が同様のサービスを行っている □ 社会情勢の変化等により市民ニーズの必要性が低下している事業や市民ニーズを把握しておらずニーズが不明な事業である → □ 該当する	→ ■ 該当しない	
	③第8次総合計画との関連性	第8次総合計画に体系付けられているか → □ いいえ	→ □ はい	
	④「事業の必要性」の評価	☐ 廃止 必要性が低い ☐ D 廃止困難(必要性を再評価) (☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 年度)		
⑤事業を廃止した場合の影響・廃止困難な理由など				

※④で、A～Dのいずれを選択した場合も、⑤は必須。

⑤記載後 A～Cを選択している場合 → Action【今後の方向性】へ
Dを選択している場合 → 2「改善の必要性」の検証・評価以降、すべて記載

平成28年度事務事業総点検 評価シート

(2)「改善の必要性」の検証・評価

(1)有効性	①目標に対する進捗状況	事業実施により意図した成果が得られているか検証し、判断の理由を記入 ■ 順調 □ 不十分 愛知県主体の事業です。			
	②成果向上の余地	今以上に成果が向上する可能性があるか検証し、判断の理由を記入 ■ ない □ ある 愛知県主体の事業です。			
	③上位施策への貢献度	事業実施により上位の施策の実現に貢献しているか検証し、判断の理由を記入 ■ 高い □ 低い 愛知県主体の事業です。			
(2)効率性	①民間活力等の活用	外部委託や指定管理者制度の導入、NPO等の活用による事業実施が可能か検証し、判断の理由を記入 ■ 不可能 □ 可能 愛知県主体の事業です。			
	②事業費の削減	現在の成果水準のまま事業費の削減が可能か検証し、判断の理由を記入 ■ 不可能 □ 可能 愛知県主体の事業です。			
	③事業の効率化・簡素化	実施方法の見直しや創意工夫により、事業の効率化・簡素化の可否を検証し、判断の理由を記入 ■ 不可能 □ 可能 愛知県主体の事業です。			
	④事務事業のスリム化	事務事業の統合や分割により、効果の向上を図ることができるか。できる場合は内容を記入 ■ ない □ 統合 □ 分割			
		既存の事務事業			
		再編後の事務事業			
		(内容)			
		削減額見込(概算)		千円	
(3)公平性	①事業規模・サービス水準	環境変化や他の自治体等との比較により、当市の事業規模やサービス水準の可否を検証し、判断理由を記入 ■ 適正 □ 過大 □ 過小 愛知県主体の事業です。			
	②受益者負担	受益者負担の適否を検証し、判断の理由を記入 □ ある □ 適正 □ 過大 □ 過小 ■ ない ■ 問題ない □ 検討必要			
		一般財源で実施することが適切であると考えます。			
「改善の必要性」の評価		☐ 有 改善の必要性 ☒ 無(現状維持) ☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 目標 年度			

平成28年度事務事業総点検 評価シート

Action【今後の方向性】

改善取組	課題	活動実績・成果・事業評価の内容を踏まえて記入 油ヶ淵水辺公園整備促進協議会において、要望活動を再開し、早期に供用開始できるよう働きかけます。		
	改善取組	上記課題に対する平成28年度における改善取組 油ヶ淵水辺公園整備促進協議会において、国土交通省及び国会議員への要望活動を行います。		
主管課評価 (再掲)	事業の必要性		改善の必要性	
	必要性が低い	必要性が高い		
	☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 0 年度 ☐ D 廃止困難	☒ E 継続	☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 ☒ 現状維持	目標 平成 0 年度
評価の総括	事業の必要性も高く、また事業改善の必要性はないと判断しました。			

平成28年度事務事業総点検 評価シート

事業番号	550	所属	都市整備部公園緑地課花とみどりの係				起案者	鈴木淳志
事業名	公園補修事業						決裁者	榊原慶治
事業区分	☐	義務的	☐	経常的	☒	政策的	連絡先	0566-71-2244
							内線	2353
事務事業の 分類	☐	企画計画立案	☐	調査・研究	☐	規制、指導	☐	育成・支援・相談
	☐	内部管理	☐	広報・普及啓発	☐	徴収・収納	☐	補助・助成・手当・サービス給付
	☒	施設管理	☐	窓口、受付	☐	用地取得・処分	☐	検査・審査・監査
	☐	施設設計・建設	☐	イベント・講座	☐	現業業務	☐	その他

Plan【事業概要】

総合計画体系	第7次		3-1-2-2-1		予算科目	会計	一般会計	
	第8次		4-1-②			款	40	土木費
						項	20	都市計画費
						目	10	公園費
市長マニフェスト	☐	該当	☒	非該当	H28当初予算説明書該当ページ			243
実施計画	☒	該当	☐	非該当				
総合計画以外の計画								
根拠法令	無							
議会答弁	無							
陳情・市民要望	無							
実施方法	一部委託		委託先	民間企業				
実施期間	開始		平成 元 年度			終期	平成 年度 ☒ なし	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が				～になる			
	公園利用者が				安全で安心に利用できる公園になる			
事務事業の内容 (手段)	公園施設等の修繕及び改修を行います。							
事務の内容	各公園施設の修繕・工事、公園施設長寿命化計画の実施、公園リニューアル整備の実施							

Do【事業費(千円)、事業実績(活動・成果)】

年間事業費等推移	No	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
			実績	実績	実績	予算
年間事業費等推移	歳出	① 事業費 (千円)	95,094	49,757	55,651	157,382
		需用費	19,852	15,251	14,769	15,000
		役務費				
		委託料			8,313	11,000
		使用料及び賃借料				30
		負担金、補助及び交付金				
		その他	75,242	34,506	32,569	131,352
	②	人件費	11,970	18,900	15,750	15,120
		正規職員 (人)	1.9	3	2.5	2.4
		臨時職員人件費 (千円)				
	③	年間経費(①+②) (千円)	107,064	68,657	71,401	172,502
	歳入	④ 特定財源(市税等の一般財源以外) (千円)	59	962	261	18,501
		国庫・県支出金 (千円)				18,500
		受益者負担金 (千円)				
		その他 (千円)	59	962	261	1
	⑤	一般財源(③-④) (千円)	107,005	67,695	71,140	154,001

平成28年度事務事業総点検 評価シート

活動実績	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度計画			
	危険遊具の更新	危険遊具の更新	危険遊具の更新	危険遊具の更新			
	各公園施設の修繕	各公園施設の修繕	各公園施設の修繕	各公園施設の修繕			
	弥厚公園補修工事		公園施設長寿命化実施設計	公園施設長寿命化実施設計			
	秋葉・総合運動公園の遊具塗裝修繕		養下公園歩道橋耐震補強実施設計	公園リニューアル整備方針策定 養下公園歩道橋耐震補強等工事 健康遊具設置工事			
成果	成果指標	単位	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	事故件数(管理瑕疵による事故)	件	目標	0	0	0	0
			実績	0	0	0	
			目標				
			実績				

Check【事業評価】

(1) 「事業の必要性」の検証・評価

(1)必要性	①行政関与の必要性	義務的な事務事業及び経常的な事務事業か ☒ いいえ		④「事業の必要性」の評価 必要性が高い ☒ E 継続 ※2「改善の必要性」の評価へ
	②特定項目	☐ 国・県・民間事業者等が同様のサービスを行っている ☐ 社会情勢の変化等により市民ニーズの必要性が低下している事業や市民ニーズを把握しておらずニーズが不明な事業である		
		☐ 該当する	☒ 該当しない	
	③第8次総合計画との関連性	第8次総合計画に体系付けられているか ☐ いいえ		
④「事業の必要性」の評価		☐ 廃止 必要性が低い ☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 年度 ☐ D 廃止困難(必要性を再評価)		
⑤事業を廃止した場合の影響・廃止困難な理由など				

※④で、A～Dのいずれを選択した場合も、⑤は必須。

⑤記載後 A～Cを選択している場合 → Action【今後の方向性】へ

Dを選択している場合 → 2「改善の必要性」の検証・評価以降、すべて記載

平成28年度事務事業総点検 評価シート

(2)「改善の必要性」の検証・評価

(1)有効性	①目標に対する進捗状況	事業実施により意図した成果が得られているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 順調 ☐ 不十分 平成27年度のeモニターアンケートにおいて、老朽化した公園施設の改善を求める多くの意見もあり、計画的な公園施設の更新・改修によって、事故を未然に防ぐよう取り組んでいます。			
	②成果向上の余地	今以上に成果が向上する可能性があるか検証し、判断の理由を記入 ☒ ない ☐ ある 子育て世代から高齢者世代までが楽しめ、地域ニーズに応じた公園施設を設置することにより、公園利用者の増加及び満足度の向上に努めます。			
	③上位施策への貢献度	事業実施により上位の施策の実現に貢献しているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 高い ☐ 低い 市民が楽しめ憩える公園を目指すため、公園施設の更新・改修は必要な取り組みです。			
(2)効率性	①民間活力等の活用	外部委託や指定管理者制度の導入、NPO等の活用による事業実施が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 工事や修繕等の発注業務であるため、委託等に馴染まないと考えます。			
	②事業費の削減	現在の成果水準のまま事業費の削減が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 市内98公園のうち、昭和期に整備された公園をはじめ、経年劣化による施設の老朽化が目立っています。今後も施設の更新・改修に事業費は必要と考えます。			
	③事業の効率化・簡素化	実施方法の見直しや創意工夫により、事業の効率化・簡素化の可否を検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 緊急性を要するものや、老朽化した施設に対応するため、事業の効率化は困難と考えます。			
	④事務事業のスリム化	事務事業の統合や分割により、効果の向上を図ることができるか。できる場合は内容を記入 ☐ ない ☒ 統合 ☐ 分割			
		既存の事務事業	公園トイレ改修事業	公園補修事業	
		再編後の事務事業	公園補修事業		
		(内容) 公園トイレ改修事業は、公園施設を補修することから、公園補修事業に統合し事務事業のスリム化を図ります。			
		削減額見込(概算)	千円		
(3)公平性	①事業規模・サービス水準	環境変化や他の自治体等との比較により、当市の事業規模やサービス水準の可否を検証し、判断理由を記入 ☒ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 安全・安心に利用できる公園の適正管理、及び、利用者や地域ニーズに応じた公園づくりを進めていく取り組みは必要と考えます。			
	②受益者負担	受益者負担の適否を検証し、判断の理由を記入 ☐ ある ☐ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 ☒ ない ☒ 問題ない ☐ 検討必要 都市部における緑とふれあえ親しめる憩いの場として、一般財源をもって実施することが適当であると考えます。			
「改善の必要性」の評価		☒ 有 ☐ 無(現状維持) ☐ 見直し ☐ 拡充 ☒ 縮小・統合 目標 28 年度			

平成28年度事務事業総点検 評価シート

Action【今後の方向性】

改善取組	課題	活動実績・成果・事業評価の内容を踏まえて記入 経年劣化により破損する公園施設が増え、利用者や地域ニーズに合わない公園においては、施設の更新等への取組みが必要です。		
	改善取組	上記課題に対する平成28年度における改善取組 公園リニューアル整備方針を策定し、また、老朽化した公園施設の更新を行っていきます。		
主管課評価 (再掲)	事業の必要性		改善の必要性	
	必要性が低い	必要性が高い		
	☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 0 年度 ☐ D 廃止困難	☒ E 継続	☐ 見直し ☐ 拡充 ☒ 縮小・統合 ☐ 現状維持	目標 平成 28 年度
評価の総括	安心・安全で憩える公園として経年劣化による施設更新は必要不可欠ですが、廃止が可能な施設か検討しながら実施していきます。			

平成28年度事務事業総点検 評価シート

事業番号	551	所属	都市整備部公園緑地課花とみどりの係			起案者	古庄朋子
事業名	公園愛護会事業					決裁者	榊原慶治
事業区分	☐	義務的	☐	経常的	☒	政策的	連絡先
							0566-71-2244
事務事業の分類	☐	企画計画立案	☐	調査・研究	☐	規制、指導	☐
	☐	内部管理	☐	広報・普及啓発	☐	徴収・収納	☒
	☒	施設管理	☐	窓口、受付	☐	用地取得・処分	☐
	☐	施設設計・建設	☐	イベント・講座	☐	現業業務	☐
							育成・支援・相談
							補助・助成・手当・サービス給付
							検査・審査・監査
							その他

Plan【事業概要】

総合計画体系	第7次	3-1-1-2-2		予算科目	会計	一般会計
	第8次	4-1-⑨			款	40 土木費
					項	20 都市計画費
					目	10 公園費
市長マニフェスト	☐	該当	☒	非該当	H28当初予算説明書該当ページ	243
実施計画	☐	該当	☒	非該当		
総合計画以外の計画						
根拠法令	有	安城市公園愛護会要綱				
議会答弁	無					
陳情・市民要望	無					
実施方法	直営	委託先				
実施期間	開始	昭和 54 年度	終期	平成 年度	☒ なし	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が			~になる		
	愛護会の参加者が			公園内の緑地保全等について積極的に参加するようになる		
事務事業の内容 (手段)	きめ細やかな公園管理と環境美化への啓発及び公園愛護意識の高揚を図る団体に対し支援を行います。					
事務の内容	公園愛護会の設立、実施計画、実績報告、変更・廃止等手続き、報償金の交付					

Do【事業費(千円)、事業実績(活動・成果)】

年間事業費等推移	No	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
			実績	実績	実績	予算
年間事業費等推移	① 歳出	事業費 (千円)	12,666	13,637	13,551	14,003
		需用費	435	438	437	495
		役務費				
		委託料				
		使用料及び賃借料				
		負担金、補助及び交付金				
		その他	12,231	13,199	13,114	13,508
	② 人件費	人件費	2,520	2,520	4,410	4,410
		正規職員 (人)	0.4	0.4	0.7	0.7
		臨時職員人件費 (千円)				
	③	年間経費(①+②) (千円)	15,186	16,157	17,961	18,413
	④ 歳入	特定財源(市税等の一般財源以外) (千円)	0	0	0	0
		国庫・県支出金 (千円)				
		受益者負担金 (千円)				
		その他 (千円)				
	⑤	一般財源(③-④) (千円)	15,186	16,157	17,961	18,413

平成28年度事務事業総点検 評価シート

活動実績	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度計画			
	清掃 毎月1回以上	清掃 毎月1回以上	清掃 毎月1回以上	清掃 毎月1回以上			
	除草 年3回以上	除草 年3回以上	除草 年3回以上	除草 年3回以上			
成果	成果指標	単位	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	愛護会活動団体数	団体	目標	102	106	107	108
			実績	104	107	105	
			目標				
			実績				

Check【事業評価】

(1) 「事業の必要性」の検証・評価

(1)必要性	①行政関与の必要性	義務的な事務事業及び経常的な事務事業か ☐ いいえ	 ☐ はい	④「事業の必要性」の評価 必要性が高い ☒ E 継続 ※2「改善の必要性」の評価へ
	②特定項目	☒ 国・県・民間事業者等が同様のサービスを行っている ☐ 社会情勢の変化等により市民ニーズの必要性が低下している事業や市民ニーズを把握しておらずニーズが不明な事業である	 ☐ 該当しない	
		 ☒ 該当する		
	③第8次総合計画との関連性	第8次総合計画に体系付けられているか ☐ いいえ 	 ☒ はい	
④「事業の必要性」の評価		☐ 廃止 必要性が低い ☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 年度 ☐ D 廃止困難(必要性を再評価)		
⑤事業を廃止した場合の影響・廃止困難な理由など				

※④で、A～Dのいずれを選択した場合も、⑤は必須。

⑤記載後 A～Cを選択している場合 → Action【今後の方向性】へ

Dを選択している場合 → 2「改善の必要性」の検証・評価以降、すべて記載

平成28年度事務事業総点検 評価シート

(2)「改善の必要性」の検証・評価

(1)有効性	①目標に対する進捗状況	事業実施により意図した成果が得られているか検証し、判断の理由を記入 ■ 順調 □ 不十分 公園愛護会により、きめ細やかな除草・清掃等が行われ、市民協働が推進されています。		
	②成果向上の余地	今以上に成果が向上する可能性があるか検証し、判断の理由を記入 ■ ない □ ある 環境美化への意識啓発を促進することで、より活発的な活動に取り組めるものと考えます。		
	③上位施策への貢献度	事業実施により上位の施策の実現に貢献しているか検証し、判断の理由を記入 ■ 高い □ 低い 市民協働の地域コミュニティ形成の場として、重要な取組みと考えます。		
(2)効率性	①民間活力等の活用	外部委託や指定管理者制度の導入、NPO等の活用による事業実施が可能か検証し、判断の理由を記入 ■ 不可能 □ 可能 公園愛護会はボランティア団体であるため、委託等に馴染まないと考えます。		
	②事業費の削減	現在の成果水準のまま事業費の削減が可能か検証し、判断の理由を記入 ■ 不可能 □ 可能 公園愛護会が継続して活動するためにも、現状の事業費は必要と考えます。		
	③事業の効率化・簡素化	実施方法の見直しや創意工夫により、事業の効率化・簡素化の可否を検証し、判断の理由を記入 ■ 不可能 □ 可能 すでに事務の効率化、簡素化が十分に行われており、これ以上の事業の効率化は困難と考えます。		
	④事務事業のスリム化	事務事業の統合や分割により、効果の向上を図ることができるか。できる場合は内容を記入 ■ ない □ 統合 □ 分割		
		既存の事務事業		
再編後の事務事業				
		(内容)		
		削減額見込(概算)		千円
(3)公平性	①事業規模・サービス水準	環境変化や他の自治体等との比較により、当市の事業規模やサービス水準の可否を検証し、判断理由を記入 ■ 適正 □ 過大 □ 過小 他の自治体においても、公園愛護会を設立しており、公園愛護の仕組みづくりとして役立てています。		
	②受益者負担	受益者負担の適否を検証し、判断の理由を記入 □ ある □ 適正 □ 過大 □ 過小 ■ ない ■ 問題ない □ 検討必要		
		地域の愛護活動には、一般財源をもって実施することが適当であると考えます。		
「改善の必要性」の評価		☐ 有 改善の必要性 ☐ 無(現状維持) ☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 目標 年度		

平成28年度事務事業総点検 評価シート

Action【今後の方向性】

改善取組	課題	活動実績・成果・事業評価の内容を踏まえて記入 除草・清掃等はシルバーや業者により管理していますが、公園愛護会により、きめ細やかな除草・清掃等が行われており、公園愛護会が無い公園では維持管理レベルが下がると考えられます。		
	改善取組	上記課題に対する平成28年度における改善取組 公園愛護会の無い公園の新規設立や環境美化の意識を高める啓発を実施していきます。		
主管課評価 (再掲)	事業の必要性		改善の必要性	
	必要性が低い	必要性が高い		
	☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 0 年度 ☐ D 廃止困難	☒ E 継続	☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 ☒ 現状維持	目標 平成 0 年度
評価の総括	きめ細やかな除草・清掃等を行ってもらえるよう、公園愛護会に対して環境美化への意識を高めるよう、今後も啓発していきます。			

平成28年度事務事業総点検 評価シート

事業番号	552		所属	都市整備部公園緑地課花とみどりの係			起案者	鈴木淳志
事業名	公園施設管理事業						決裁者	榊原慶治
事業区分	☐	義務的	☐	経常的	☒	政策的	連絡先	0566-71-2244
							内線	2353
事務事業の 分類	☐	企画計画立案	☐	調査・研究	☐	規制、指導	☐	育成・支援・相談
	☐	内部管理	☐	広報・普及啓発	☐	徴収・収納	☐	補助・助成・手当・サービス給付
	☒	施設管理	☐	窓口、受付	☐	用地取得・処分	☐	検査・審査・監査
	☐	施設設計・建設	☐	イベント・講座	☒	現業業務	☐	その他

Plan【事業概要】

総合計画体系	第7次		3-1-2-9-9		予算科目	会計	一般会計	
	第8次		4-1-⑨			款	40	土木費
						項	20	都市計画費
						目	10	公園費
市長マニフェスト	☐	該当	☒	非該当	H28当初予算説明書該当ページ			243
実施計画	☐	該当	☒	非該当				
総合計画以外の計画								
根拠法令	無							
議会答弁	無							
陳情・市民要望	無							
実施方法	一部委託		委託先	民間企業				
実施期間	開始		平成 元 年度			終期	平成 年度 ☒ なし	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が				～になる			
	公園利用者が				安全で安心に利用できる公園になる			
事務事業の内容 (手段)	委託や直営により、公園施設の円滑な管理や環境美化の推進を図る維持管理を行います。							
事務の内容	蒸気機関車管理、公園遊具点検、安城公園動物舎施設管理、浄化槽保守点検、公園夜間警備、公園トイレ清掃、松くい虫薬剤防除、公園樹木等管理							

Do【事業費(千円)、事業実績(活動・成果)】

年間事業費等推移	No	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
			実績	実績	実績	予算
年間事業費等推移	歳出	① 事業費 (千円)	186,984	230,809	238,359	266,871
		需用費	26,892	28,978	28,433	29,374
		役務費	970	1,007	1,390	1,764
		委託料	142,468	180,354	188,123	215,043
		使用料及び賃借料	11,019	11,019	11,020	11,021
		負担金、補助及び交付金	5,635			
		その他		9,451	9,393	9,669
	歳入	② 人件費	17,010	15,750	16,380	14,490
		正規職員 (人)	2.7	2.5	2.6	2.3
		臨時職員人件費 (千円)				
		③ 年間経費(①+②) (千円)	203,994	246,559	254,739	281,361
		④ 特定財源(市税等の一般財源以外) (千円)	2,500	0	0	0
		国庫・県支出金 (千円)	2,500			
		受益者負担金 (千円)				
		その他 (千円)				
		⑤ 一般財源(③-④) (千円)	201,494	246,559	254,739	281,361

平成28年度事務事業総点検 評価シート

活動実績	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度計画			
	蒸気機関車管理(4回) 公園遊具点検(6回) 浄化槽保守点検 公園夜間警備 公園トイレ清掃(102箇所) 松くい虫薬剤防除(200本) 公園樹木等管理 (シルバー・69公園) 公園樹木等管理 (業者・23公園) (剪定(1回)、防除(随時)、 除草(3回)、芝刈(2回)、清 掃(1回)、パトロール(1回))	蒸気機関車管理(4回) 公園遊具点検(6回) 浄化槽保守点検 公園夜間警備 公園トイレ清掃(102箇所) 松くい虫薬剤防除(68本) 公園樹木等管理 (シルバー・69公園) 公園樹木等管理 (業者・24公園) (剪定(1回)、防除(随 時)、除草(3回)、芝刈(2 回)、清掃(1回)、パトロー ル(1回))	蒸気機関車管理(4回) 公園遊具点検(6回) 浄化槽保守点検 公園夜間警備 公園トイレ清掃(103箇所) 松くい虫薬剤防除(269本) 公園樹木等管理 (シルバー・69公園) 公園樹木等管理 (業者・18公園) (剪定(1回)、防除(随 時)、除草(3回)、芝刈(2 回)、清掃(1回)、パトロー ル(1回))	蒸気機関車管理(4回) 公園遊具点検(6回) 浄化槽保守点検 公園夜間警備 公園トイレ清掃(103箇所) 松くい虫薬剤防除(100本) 樹木診断(10,152本) 公園樹木等管理 (シルバー・70公園) 公園樹木等管理 (業者・23公園) (剪定(1回)、防除(随時)、除 草(3回)、芝刈(2回)、清掃(1 回)、パトロール(1回))			
成果	成果指標	単位	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	事故件数(管理瑕疵による事故)	件	目標	0	0	0	0
			実績	0	0	0	
				目標			
実績							

Check【事業評価】

(1) 「事業の必要性」の検証・評価

(1)必要性	①行政関与の必要性	義務的な事務事業及び経常的な事務事業か ☐ いいえ	☐ はい	④「事業の必要性」の評価 必要性が高い ☒ E 継続 ※2「改善の必要性」の評価へ
	②特定項目	☐ 国・県・民間事業者等が同様のサービスを行っている ☐ 社会情勢の変化等により市民ニーズの必要性が低下している事業や市民ニーズを把握しておらずニーズが不明な事業である	☒ 該当しない	
		☐ 該当する		
	③第8次総合計画との関連性	第8次総合計画に体系付けられているか ☐ いいえ	☐ はい	
④「事業の必要性」の評価		☐ 廃止 必要性が低い ☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 年度 ☐ D 廃止困難(必要性を再評価)		
⑤事業を廃止した場合の影響・廃止困難な理由など				

※④で、A～Dのいずれを選択した場合も、⑤は必須。

⑤記載後 A～Cを選択している場合 → Action【今後の方向性】へ

Dを選択している場合 → 2「改善の必要性」の検証・評価以降、すべて記載

平成28年度事務事業総点検 評価シート

(2)「改善の必要性」の検証・評価

(1)有効性	①目標に対する進捗状況	事業実施により意図した成果が得られているか検証し、判断の理由を記入 ☐ 順調 ☒ 不十分 平成27年度に行ったeモニターアンケートから、約6割の方が月に1回以上利用していますが、約7割の方が現状の公園について「満足していない」、「どちらともいえない」と回答しています。			
	②成果向上の余地	今以上に成果が向上する可能性があるか検証し、判断の理由を記入 ☐ ない ☒ ある 公園補修事業において老朽化した公園施設の更新・改修を行ない、施設の保全、維持管理を実施する取組が必要です。			
	③上位施策への貢献度	事業実施により上位の施策の実現に貢献しているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 高い ☐ 低い 公園施設の更新後、市民満足度を継続して向上させるためには、トイレ清掃や樹木管理等の適正な維持管理は重要な取組みと考えます。			
(2)効率性	①民間活力等の活用	外部委託や指定管理者制度の導入、NPO等の活用による事業実施が可能か検証し、判断の理由を記入 ☐ 不可能 ☒ 可能 堀内公園、安祥城址公園と同様に指定管理者制度の導入が可能な公園がないか研究していきます。			
	②事業費の削減	現在の成果水準のまま事業費の削減が可能か検証し、判断の理由を記入 ☐ 不可能 ☒ 可能 指定管理者制度を導入することで、事業費の削減が可能と考えます。 樹木管理業務については、災害時に備え1業者1業務といった入札条件を変更することで民間事業者間の競争を高め契約金額が低減するよう努めます。			
	③事業の効率化・簡素化	実施方法の見直しや創意工夫により、事業の効率化・簡素化の可否を検証し、判断の理由を記入 ☐ 不可能 ☒ 可能 指定管理者制度を導入することで事務の効率化、簡素化を図ることが可能と考えます。			
	④事務事業のスリム化	事務事業の統合や分割により、効果の向上を図ることができるか。できる場合は内容を記入 ☒ ない ☐ 統合 ☐ 分割			
		既存の事務事業			
		再編後の事務事業			
		(内容)			
		削減額見込(概算)	千円		
(3)公平性	①事業規模・サービス水準	環境変化や他の自治体等との比較により、当市の事業規模やサービス水準の可否を検証し、判断理由を記入 ☒ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 安全・安心・快適に利用できる公園を目指し、今後も継続した取組が必要と考えます。			
	②受益者負担	受益者負担の適否を検証し、判断の理由を記入 ☐ ある ☐ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 ☒ ない ☒ 問題ない ☐ 検討必要 都市部における緑とふれあえ親しめる憩いの場として、一般財源をもって実施することが適当であると考えます。			
「改善の必要性」の評価		☐ 有 ☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 目標 29 年度 ☒ 無(現状維持)			

平成28年度事務事業総点検 評価シート

Action【今後の方向性】

改善取組	課題	活動実績・成果・事業評価の内容を踏まえて記入 新規公園の増加に対し、事業費を抑制しながら市民満足度を向上させる取組が必要です。		
	改善取組	上記課題に対する平成28年度における改善取組 指定管理者制度の導入が可能な公園について研究し、市民満足度が高く、安全・安心な公園となるよう努めます。		
主管課評価 (再掲)	事業の必要性		改善の必要性	
	必要性が低い	必要性が高い		
	☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 0 年度 ☐ D 廃止困難	☒ E 継続	☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 ☒ 現状維持	目標 平成 29 年度
評価の総括	指定管理者制度の導入について調査・研究し、事業費の削減と事務の効率化を目指します。			

平成28年度事務事業総点検 評価シート

事業番号	553	所属	都市整備部公園緑地課公園整備係				起案者	鈴木優輝
事業名	公共施設緑化事業						決裁者	榊原慶治
事業区分	☐	義務的	☐	経常的	☒	政策的	連絡先	0566-76-1111
							内線	2354
事務事業の 分類	☐	企画計画立案	☐	調査・研究	☐	規制、指導	☐	育成・支援・相談
	☐	内部管理	☐	広報・普及啓発	☐	徴収・収納	☐	補助・助成・手当・サービス給付
	☐	施設管理	☐	窓口、受付	☐	用地取得・処分	☐	検査・審査・監査
	☒	施設設計・建設	☐	イベント・講座	☐	現業業務	☐	その他

Plan【事業概要】

総合計画体系	第7次		3-1-1-1-2		予算科目	会計	一般会計	
	第8次		4-1-④			款	40	土木費
						項	20	都市計画費
						目	15	緑化事業費
市長マニフェスト	☐	該当	☒	非該当	H28当初予算説明書該当ページ			243
実施計画	☐	該当	☒	非該当				
総合計画以外の計画								
根拠法令		無						
議会答弁		無						
陳情・市民要望		無						
実施方法		一部委託		委託先	民間企業			
実施期間		開始		平成 元 年度			終期	平成 年度 ☒ なし
求める成果 (目的)	誰(受益者)が				～になる			
	すべての市民が				豊かな緑ある環境で、快適な生活を送ることができる			
事務事業の内容 (手段)		緑の基本計画に基づき、市内の公園、道路、河川を始め、公民館や学校などの公共施設や市有地を、積極的に緑化します。						
事務の内容		植栽については将来の生育状況を加味した適正な樹種の選定及び植栽密度とし、維持管理費の低減、周辺への影響を少なくすることに努めました。						

Do【事業費(千円)、事業実績(活動・成果)】

年間事業費 等推移	No	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
			実績	実績	実績	予算
年間事業費 等推移	歳出	① 事業費 (千円)	11,924	8,542	11,586	8,678
		需用費	964	331	371	350
		役務費				
		委託料	3,449		3,110	
		使用料及び賃借料				
		負担金、補助及び交付金				
		その他	7,511	8,211	8,105	8,328
	②	人件費	5,670	8,190	8,190	5,670
		正規職員 (人)	0.9	1.3	1.3	0.9
		臨時職員人件費 (千円)				
	③	年間経費(①+②) (千円)	17,594	16,732	19,776	14,348
	歳入	④ 特定財源(市税等の一般財源以外) (千円)	699	329	490	153
		国庫・県支出金 (千円)				
		受益者負担金 (千円)				
		その他 (千円)	699	329	490	153
	⑤	一般財源(③-④) (千円)	16,895	16,403	19,286	14,195

平成28年度事務事業総点検 評価シート

活動実績	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績		平成28年度計画		
	荒曽根公園植樹祭業務 公園植栽工事 (桜井南・池浦西)	公園補修工事 公園植栽工事 (荒曽根・養下) 公共施設植栽工事 (明祥中学校)	金政公園植樹祭業務 植栽工事 (仲畔公園他1) (秋葉公園他4)		街路樹植栽等工事 緑化資材購入費		
成果	成果指標	単位	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	公共施設の緑化推進 (補植)	%	目標	100	100	100	100
			実績	100	100	100	
			目標				
			実績				

Check【事業評価】

(1)「事業の必要性」の検証・評価

(1)必要性	①行政関与の必要性	義務的な事務事業及び経常的な事務事業か ■ いいえ	→ □ はい	④「事業の必要性」の評価 必要性が高い ■ E 継続 ※2「改善の必要性」の評価へ
	②特定項目	☐ 国・県・民間事業者等が同様のサービスを行っている ☐ 社会情勢の変化等により市民ニーズの必要性が低下している事業や市民ニーズを把握しておらずニーズが不明な事業である	→ ■ 該当しない	
	③第8次総合計画との関連性	第8次総合計画に体系付けられているか □ 該当する	→ □ はい	
		□ いいえ		
④「事業の必要性」の評価		☐ 廃止 必要性が低い ☐ D 廃止困難(必要性を再評価) ☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 年度		
⑤事業を廃止した場合の影響・廃止困難な理由など				

※④で、A～Dのいずれを選択した場合も、⑤は必須。

⑤記載後 A～Cを選択している場合 → Action【今後の方向性】へ
Dを選択している場合 → 2「改善の必要性」の検証・評価以降、すべて記載

平成28年度事務事業総点検 評価シート

(2)「改善の必要性」の検証・評価

(1)有効性	①目標に対する進捗状況	事業実施により意図した成果が得られているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 順調 ☐ 不十分 成果指標から見られるよう計画・実績が成果として出ています。			
	②成果向上の余地	今以上に成果が向上する可能性があるか検証し、判断の理由を記入 ☒ ない ☐ ある 要望等による事業であるため、成果向上の余地は見込まれません。			
	③上位施策への貢献度	事業実施により上位の施策の実現に貢献しているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 高い ☐ 低い 総合計画に掲げる目標に貢献しています。			
(2)効率性	①民間活力等の活用	☒ 不可能 ☐ 可能 市が直接実施すべき事業であるため、委託等に馴染まないと考えます。			
	②事業費の削減	現在の成果水準のまま事業費の削減が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 要望等による事業であるため、事業費の削減は困難です。			
	③事業の効率化・簡素化	実施方法の見直しや創意工夫により、事業の効率化・簡素化の可否を検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 対象が樹木であるため、効率化・簡素化の見直しは困難です。			
	④事務事業のスリム化	事務事業の統合や分割により、効果の向上を図ることができるか。できる場合は内容を記入 ☒ ない ☐ 統合 ☐ 分割			
		既存の事務事業			
		再編後の事務事業			
		(内容)			
		削減額見込(概算)		千円	
(3)公平性	①事業規模・サービス水準	環境変化や他の自治体等との比較により、当市の事業規模やサービス水準の可否を検証し、判断理由を記入 ☒ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 緑地保全により、温室効果ガスの排出抑制することが見込まれます。			
	②受益者負担	受益者負担の適否を検証し、判断の理由を記入 ☐ ある ☐ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 ☒ ない ☒ 問題ない ☐ 検討必要			
		一般財源で実施することが適切であると考えます。			
「改善の必要性」の評価		☐ 有 ☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 目標 年度 ☒ 無(現状維持)			

平成28年度事務事業総点検 評価シート

Action【今後の方向性】

改善取組	課題	活動実績・成果・事業評価の内容を踏まえて記入 樹木の生育を判断できません。		
	改善取組	上記課題に対する平成28年度における改善取組 樹木パトロール等で見極めます。		
主管課評価 (再掲)	事業の必要性		改善の必要性	
	必要性が低い	必要性が高い		
	☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 0 年度 ☐ D 廃止困難	☒ E 継続	☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 ☒ 現状維持	目標 平成 0 年度
評価の総括	事業の必要性が高いため、事業改善の必要性はないと判断しました。			

平成28年度事務事業総点検 評価シート

事業番号	554	所属	都市整備部公園緑地課花とみどりの係			起案者	鈴木淳志
事業名	街路樹木管理事業					決裁者	榊原慶治
事業区分	☐	義務的	☐	経常的	☒	政策的	連絡先
							0566-71-2244
事務事業の分類	☐	企画計画立案	☐	調査・研究	☐	規制・指導	☐
	☐	内部管理	☐	広報・普及啓発	☐	徴収・収納	☐
	☒	施設管理	☐	窓口、受付	☐	用地取得・処分	☐
	☐	施設設計・建設	☐	イベント・講座	☐	現業業務	☐
							育成・支援・相談
							補助・助成・手当・サービス給付
							検査・審査・監査
							その他

Plan【事業概要】

総合計画体系	第7次	3-1-2-9-9		予算科目	会計	一般会計
	第8次	4-1-④			款	40 土木費
					項	20 都市計画費
					目	15 緑化事業費
市長マニフェスト	☐	該当	☒	非該当	H28当初予算説明書該当ページ	245
実施計画	☐	該当	☒	非該当		
総合計画以外の計画						
根拠法令	無					
議会答弁	無					
陳情・市民要望	無					
実施方法	全部委託	委託先	民間企業			
実施期間	開始	平成 元 年度	終期	平成 年度	☒ なし	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が			~になる		
	道路利用者や沿線周辺住民が			良好な生活環境になる		
事務事業の内容 (手段)	業務委託により街路樹の剪定・防除・除草等を実施して適正な維持管理を行います。					
事務の内容	街路樹の剪定、防除、除草、緑地帯清掃、パトロール等					

Do【事業費(千円)、事業実績(活動・成果)】

年間事業費等推移	No	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
			実績	実績	実績	予算
年間事業費等推移	① 歳出	事業費 (千円)	63,919	79,563	98,859	106,905
		需用費	322	362	315	405
		役務費				
		委託料	63,597	79,201	98,544	106,500
		使用料及び賃借料				
		負担金、補助及び交付金				
		その他				
	② 人件費	人件費	4,410	5,040	5,670	4,410
		正規職員 (人)	0.7	0.8	0.9	0.7
		臨時職員人件費 (千円)				
	③	年間経費(①+②) (千円)	68,329	84,603	104,529	111,315
	④ 歳入	特定財源(市税等の一般財源以外) (千円)	0	0	0	0
		国庫・県支出金 (千円)				
		受益者負担金 (千円)				
		その他 (千円)				
	⑤	一般財源(③-④) (千円)	68,329	84,603	104,529	111,315

平成28年度事務事業総点検 評価シート

活動実績	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度計画			
	街路樹等管理 (剪定(1回)、防除(随 時)、除草(3回)、緑地帯 清掃(1回)、パトロール(1 3回)) 松くい虫防除(105本)	街路樹等管理 (剪定(1回)、防除(随 時)、除草(3回)、緑地帯 清掃(1回)、パトロール (13回)) 松くい虫防除(125本)	街路樹等管理 (剪定(1回)、防除(随 時)、除草(3回)、緑地帯 清掃(1回)、パトロール (13回)) 松くい虫防除(119本)	街路樹等管理 (剪定(1回)、防除(随 時)、除草(3回)、緑地帯 清掃(1回)、パトロール (13回)) 松くい虫防除(100本) 樹木診断(5,350本)			
成果	成果指標	単位	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	事故件数(管理瑕疵による事 故)	件	目標	0	0	0	0
			実績	0	1	0	
			目標				
			実績				

Check【事業評価】

(1)「事業の必要性」の検証・評価

(1)必要性	①行政関 与の 必要性	義務的な事務事業及び経常的な事務事業か ■ いいえ	→ □ はい	④「事業の必要性」 の評価 必要性が高い ■ E 継続 ※2「改善の必要性」の 評価へ
	②特定項目	□ 国・県・民間事業者等が同様のサービスを行っている □ 社会情勢の変化等により市民ニーズの必要性が低下して いる事業や市民ニーズを把握しておらずニーズが不明な 事業である □ 該当する	→ ■ 該当 しない	
	③第8次総 合計画との 関連性	第8次総合計画に体系付けられているか □ 該当する	→ □ はい	
	④「事業の必要性」 の評価	☐ 廃止 必要性が低い ☐ D 廃止困難(必要性を再評価) (☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 年度)		
⑤事業を廃止した場合の 影響・廃止困難な理由な ど				

※④で、A～Dのいずれを選択した場合も、⑤は必須。

⑤記載後 A～Cを選択している場合 → Action【今後の方向性】へ

Dを選択している場合 → 2「改善の必要性」の検証・評価以降、すべて記載

平成28年度事務事業総点検 評価シート

(2)「改善の必要性」の検証・評価

(1)有効性	①目標に対する進捗状況	事業実施により意図した成果が得られているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 順調 ☐ 不十分 適時、適正に街路樹管理を実施しており、質の高い行政サービスを提供しています。		
	②成果向上の余地	今以上に成果が向上する可能性があるか検証し、判断の理由を記入 ☒ ない ☐ ある 現状ですでに十分な成果をあげていると考えます。		
	③上位施策への貢献度	事業実施により上位の施策の実現に貢献しているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 高い ☐ 低い 花とみどりにあふれた街並みを形成するためにも、街路樹木管理は重要な取組みです。		
(2)効率性	①民間活力等の活用	外部委託や指定管理者制度の導入、NPO等の活用による事業実施が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 多くの業務を外部委託しています。		
	②事業費の削減	現在の成果水準のまま事業費の削減が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 樹木管理業務については、災害時に備え1業者1業務といった入札条件を変更することで民間事業者間の競争を高め契約金額が低減するよう努めます。		
	③事業の効率化・簡素化	実施方法の見直しや創意工夫により、事業の効率化・簡素化の可否を検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 すでに事務の効率化、簡素化が十分に行われており、これ以上の事業の効率化は困難と考えます。		
	④事務事業のスリム化	事務事業の統合や分割により、効果の向上を図ることができるか。できる場合は内容を記入 ☒ ない ☐ 統合 ☐ 分割		
		既存の事務事業		
再編後の事務事業				
		(内容)		
		削減額見込(概算)		千円
(3)公平性	①事業規模・サービス水準	環境変化や他の自治体等との比較により、当市の事業規模やサービス水準の可否を検証し、判断理由を記入 ☒ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 他の自治体も同様な街路樹木管理を実施しており、都市景観や交通安全等においても重要な事業のひとつとなっています。		
	②受益者負担	受益者負担の適否を検証し、判断の理由を記入 ☐ ある ☐ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 ☒ ない ☒ 問題ない ☐ 検討必要 一般道路に植栽された樹木であるため、一般財源をもって実施することが適当であると考えます。		
「改善の必要性」の評価		☐ 有 ☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 } [目標 年度 ☒ 無(現状維持)		

平成28年度事務事業総点検 評価シート

Action【今後の方向性】

改善取組	課題	活動実績・成果・事業評価の内容を踏まえて記入 新規道路の増加に対し、事業費を抑制しながら市民満足度を向上させる取組が必要です。	
	改善取組	上記課題に対する平成28年度における改善取組 樹木維持管理業務において高木の樹木診断を行い、枯木や腐朽菌に感染した樹木等について適正な樹木管理に取組み、市民満足度の向上に努めます。	
主管課評価 (再掲)	事業の必要性		改善の必要性
	必要性が低い	必要性が高い	
	☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 0 年度 ☐ D 廃止困難	☒ E 継続	☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 ☒ 現状維持 目標 平成 0 年度
評価の総括	枯木や腐朽病の感染した危険樹木の伐採や混み入った場所の間伐等、不用木の撤去や入札条件の見直しによる民間事業者間の競争を高めて事業費の削減を図ります。		

平成28年度事務事業総点検 評価シート

事業番号	555	所属	都市整備部公園緑地課花とみどりの係			起案者	古庄朋子	
事業名	街路樹愛護会事業					決裁者	榊原慶治	
事業区分	☐	義務的	☐	経常的	☒	政策的	連絡先	0566-71-2244
							内線	2353
事務事業の 分類	☐	企画計画立案	☐	調査・研究	☐	規制、指導	☐	育成・支援・相談
	☐	内部管理	☐	広報・普及啓発	☐	徴収・収納	☒	補助・助成・手当・サービス給付
	☒	施設管理	☐	窓口、受付	☐	用地取得・処分	☐	検査・審査・監査
	☐	施設設計・建設	☐	イベント・講座	☐	現業業務	☐	その他

Plan【事業概要】

総合計画体系	第7次	3-1-1-2-2		予算科目	会計	一般会計	
	第8次	4-1-⑨			款	40	土木費
					項	20	都市計画費
					目	15	緑化事業費
市長マニフェスト	☐	該当	☒	非該当	H28当初予算説明書該当ページ		245
実施計画	☐	該当	☒	非該当			
総合計画以外の計画							
根拠法令	有	安城市街路樹愛護会要綱					
議会答弁	無						
陳情・市民要望	無						
実施方法	直営	委託先					
実施期間	開始	昭和 56 年度	終期	平成 年度	☒ なし		
求める成果 (目的)	誰(受益者)が			~になる			
	愛護会の参加者が			市内の緑地保全等について積極的に参加するようになる			
事務事業の内容 (手段)	都市の環境美化を図り、あわせて街路樹愛護の精神の高揚を図る団体に対し支援を行います。						
事務の内容	街路樹愛護会の設立、実施計画、実績報告、変更・廃止等手続き、報償金の交付						

Do【事業費(千円)、事業実績(活動・成果)】

年間事業費 等推移	No	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
			実績	実績	実績	予算
年間事業費 等推移	歳出	① 事業費 (千円)	6,124	6,353	6,408	8,065
		需用費	181	190	422	454
		役務費				
		委託料				
		使用料及び賃借料				
		負担金、補助及び交付金				
		その他	5,943	6,163	5,986	7,611
	②	人件費	2,520	2,520	1,260	1,260
		正規職員 (人)	0.4	0.4	0.2	0.2
		臨時職員人件費 (千円)				
	③	年間経費(①+②) (千円)	8,644	8,873	7,668	9,325
	歳入	④ 特定財源(市税等の一般財源以外) (千円)	0	0	0	0
		国庫・県支出金 (千円)				
		受益者負担金 (千円)				
		その他 (千円)				
	⑤	一般財源(③-④) (千円)	8,644	8,873	7,668	9,325

平成28年度事務事業総点検 評価シート

活動実績	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度計画			
	清掃 毎月2回以上	清掃 毎月2回以上	清掃 毎月2回以上	清掃 毎月2回以上			
	除草 年3回以上	除草 年3回以上	除草 年3回以上	除草 年3回以上			
成果	成果指標	単位	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	愛護会活動団体数	団体	目標	55	57	54	52
			実績	55	54	52	
			目標				
			実績				

Check【事業評価】

(1)「事業の必要性」の検証・評価

(1)必要性	①行政関与の必要性	義務的な事務事業及び経常的な事務事業か ☒ いいえ	→ ☐ はい	④「事業の必要性」の評価 必要性が高い ☒ E 継続 ※2「改善の必要性」の評価へ
	②特定項目	☐ 国・県・民間事業者等が同様のサービスを行っている ☐ 社会情勢の変化等により市民ニーズの必要性が低下している事業や市民ニーズを把握しておらずニーズが不明な事業である	→ ☒ 該当しない	
	③第8次総合計画との関連性	第8次総合計画に体系付けられているか ☐ いいえ	→ ☐ はい	
	④「事業の必要性」の評価	☐ 廃止 ☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 年度 ☐ D 廃止困難(必要性を再評価)		
⑤事業を廃止した場合の影響・廃止困難な理由など				

※④で、A～Dのいずれを選択した場合も、⑤は必須。

⑤記載後 A～Cを選択している場合 → Action【今後の方向性】へ

Dを選択している場合 → 2「改善の必要性」の検証・評価以降、すべて記載

平成28年度事務事業総点検 評価シート

(2)「改善の必要性」の検証・評価

(1)有効性	①目標に対する進捗状況	事業実施により意図した成果が得られているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 順調 ☐ 不十分 街路樹愛護会により、街路樹や緑道等の除草・清掃が行われ、市民協働が推進されています。		
	②成果向上の余地	今以上に成果が向上する可能性があるか検証し、判断の理由を記入 ☒ ない ☐ ある 環境美化への意識啓発を促進することで、より活発的な活動に取り組めるものと考えます。		
	③上位施策への貢献度	事業実施により上位の施策の実現に貢献しているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 高い ☐ 低い 市民協働の地域コミュニティ形成の場として、重要な取組みと考えます。		
(2)効率性	①民間活力等の活用	外部委託や指定管理者制度の導入、NPO等の活用による事業実施が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 街路樹愛護会はボランティア団体であるため、委託等に馴染まないと考えます。		
	②事業費の削減	現在の成果水準のまま事業費の削減が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 報償費を削減することで街路樹愛護会の活動団体が減少した場合、外部委託へ発注する維持管理費用が増加します。		
	③事業の効率化・簡素化	実施方法の見直しや創意工夫により、事業の効率化・簡素化の可否を検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 すでに事務の効率化、簡素化が十分に行われており、これ以上の事業の効率化は困難と考えます。		
	④事務事業のスリム化	事務事業の統合や分割により、効果の向上を図ることができるか。できる場合は内容を記入 ☒ ない ☐ 統合 ☐ 分割		
		既存の事務事業		
再編後の事務事業				
		(内容)		
		削減額見込(概算)		千円
(3)公平性	①事業規模・サービス水準	環境変化や他の自治体等との比較により、当市の事業規模やサービス水準の可否を検証し、判断理由を記入 ☒ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 他の自治体においても、街路樹愛護会を設立しており、環境美化の仕組みづくりとして役立てています。		
	②受益者負担	受益者負担の適否を検証し、判断の理由を記入 ☐ ある ☐ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 ☒ ない ☒ 問題ない ☐ 検討必要		
		地域の愛護活動には、一般財源をもって実施することが適当であると考えます。		
「改善の必要性」の評価		☐ 有 ☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 目標 年度 ☒ 無(現状維持)		

平成28年度事務事業総点検 評価シート

Action【今後の方向性】

改善取組	課題	活動実績・成果・事業評価の内容を踏まえて記入 街路樹愛護会は、街路樹や緑道等の除草・清掃等を全面的に受け持ち、事業費における効果は高いものと考えられます。		
	改善取組	上記課題に対する平成28年度における改善取組 街路樹愛護会の無い路線の新規設立や環境美化の意識を高める啓発を実施していきます。		
主管課評価 (再掲)	事業の必要性		改善の必要性	
	必要性が低い	必要性が高い		
	☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 0 年度 ☐ D 廃止困難	☒ E 継続	☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 ☒ 現状維持	目標 平成 0 年度
評価の総括	きめ細やかな除草・清掃等を行ってもらえるよう、街路樹愛護会に対して環境美化への意識を高めるよう今後も啓発していきます。			

平成28年度事務事業総点検 評価シート

事業番号	556		所属	都市整備部公園緑地課花とみどりの係			起案者	古庄朋子	
事業名	樹林・樹木保全事業						決裁者	榊原慶治	
事業区分	☐	義務的	☐	経常的	☒	政策的	連絡先	0566-71-2244	
							内線	2353	
事務事業の 分類	☐	企画計画立案	☐	調査・研究	☐	規制、指導	☐	育成・支援・相談	
	☐	内部管理	☐	広報・普及啓発	☐	徴収・収納	☒	補助・助成・手当・サービス給付	
	☒	施設管理	☐	窓口、受付	☐	用地取得・処分	☐	検査・審査・監査	
	☐	施設設計・建設	☐	イベント・講座	☐	現業業務	☐	その他	

Plan【事業概要】

総合計画体系	第7次		3-1-1-3-1		予算科目	会計	一般会計	
	第8次		4-1-④			款	40	土木費
						項	20	都市計画費
						目	15	緑化事業費
市長マニフェスト	☐	該当	☒	非該当	H28当初予算説明書該当ページ			245
実施計画	☐	該当	☒	非該当				
総合計画以外の計画	安城市緑の基本計画							
根拠法令	有	安城市緑化条例						
議会答弁	無							
陳情・市民要望	無							
実施方法	直営		委託先					
実施期間	開始		昭和 61 年度			終期		平成 年度 ☒ なし
求める成果 (目的)	誰(受益者)が				～になる			
	市民が				緑を保全することで、自然と調和した緑あふれる生活環境になる			
事務事業の内容 (手段)	保護樹木や樹林保全地区の緑の保護を図ります。 松くい虫被害木自主駆除・薬剤防除及び地域花壇設置について補助金の交付を行います。							
事務の内容	保護樹木・樹林保全地区の指定、指定変更届の受付、助成金の支払 松くい虫被害木自主駆除・薬剤防除及び地域花壇設置補助申請の審査、決定、交付							

Do【事業費(千円)、事業実績(活動・成果)】

年間事業費等推移	No	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
			実績	実績	実績	予算
年間事業費等推移	歳出	① 事業費 (千円)	3,909	5,533	2,759	7,054
		需用費				
		役務費				
		委託料				
		使用料及び賃借料				
		負担金、補助及び交付金	2,571	4,111	1,340	5,620
		その他	1,338	1,422	1,419	1,434
	②	人件費	1,890	1,890	1,890	1,890
		正規職員 (人)	0.3	0.3	0.3	0.3
		臨時職員人件費 (千円)				
	③	年間経費(①+②) (千円)	5,799	7,423	4,649	8,944
	歳入	④ 特定財源(市税等の一般財源以外) (千円)	0	0	0	0
		国庫・県支出金 (千円)				
		受益者負担金 (千円)				
		その他 (千円)				
		⑤ 一般財源(③-④) (千円)	5,799	7,423	4,649	8,944

平成28年度事務事業総点検 評価シート

活動実績	平成25年度実績		平成26年度実績		平成27年度実績		平成28年度計画	
	保護樹木(97本)		保護樹木(99本)		保護樹木(98本)		保護樹木(98本)	
	樹林保全地区(109,429㎡)		樹林保全地区(117,408㎡)		樹林保全地区(117,408㎡)		樹林保全地区(117,408㎡)	
	松くい虫被害木自主駆除(8件)		松くい虫被害木自主駆除(5件)		松くい虫被害木自主駆除(3件)		松くい虫被害木自主駆除(10件)	
	松くい虫薬剤防除(6件)		松くい虫薬剤防除(13件)		松くい虫薬剤防除(4件)		松くい虫薬剤防除(25件)	
	地域花壇設置(1件)		地域花壇設置(1件)		地域花壇設置(2件)		地域花壇設置(2件)	
成果	成果指標		単位	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	松くい虫被害木自主駆除申請件数		件	目標	10	10	10	10
				実績	8	5	3	
	樹林保全地区面積		㎡	目標	109,845	109,429	117,408	117,408
				実績	109,429	117,408	117,408	

Check【事業評価】

(1)「事業の必要性」の検証・評価

(1)必要性	①行政関与の必要性	義務的な事務事業及び経常的な事務事業か ☒ いいえ	→	④「事業の必要性」の評価 必要性が高い ☒ E 継続 ※2「改善の必要性」の評価へ
	②特定項目	☐ 国・県・民間事業者等が同様のサービスを行っている ☐ 社会情勢の変化等により市民ニーズの必要性が低下している事業や市民ニーズを把握しておらずニーズが不明な事業である	→	
	③第8次総合計画との関連性	第8次総合計画に体系付けられているか ☐ いいえ	→	
	④「事業の必要性」の評価	☐ 廃止 必要性が低い ☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 年度 ☐ D 廃止困難(必要性を再評価)		
⑤事業を廃止した場合の影響・廃止困難な理由など				

※④で、A～Dのいずれを選択した場合も、⑤は必須。

⑤記載後 A～Cを選択している場合 → Action【今後の方向性】へ
 Dを選択している場合 → 2「改善の必要性」の検証・評価以降、すべて記載

平成28年度事務事業総点検 評価シート

(2)「改善の必要性」の検証・評価

(1)有効性	①目標に対する進捗状況	事業実施により意図した成果が得られているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 順調 ☐ 不十分 保護樹木・樹林保全地区については、新たに保護すべき樹林・樹木の調査を行ない、また、松くい虫被害木自主駆除・薬剤防除について補助金の交付により、緑の保全に努めています。		
	②成果向上の余地	今以上に成果が向上する可能性があるか検証し、判断の理由を記入 ☒ ない ☐ ある 現状ですでに十分な成果をあげていると考えます。		
	③上位施策への貢献度	事業実施により上位の施策の実現に貢献しているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 高い ☐ 低い 民有地緑化への助成や補助のため、民間所有者の動向により緑の保全が危ぶまれます。		
(2)効率性	①民間活力等の活用	外部委託や指定管理者制度の導入、NPO等の活用による事業実施が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 市の内部事務であるため、委託等に馴染まないと考えます。		
	②事業費の削減	現在の成果水準のまま事業費の削減が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 松くい虫被害木自主駆除・薬剤防除の補助金は、松くい虫被害の拡散を防ぐため、現状の事業費が必要と考えます。		
	③事業の効率化・簡素化	実施方法の見直しや創意工夫により、事業の効率化・簡素化の可否を検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 すでに事務の効率化、簡素化が十分に行われており、これ以上の事業の効率化は困難と考えます。		
	④事務事業のスリム化	事務事業の統合や分割により、効果の向上を図ることができるか。できる場合は内容を記入 ☒ ない ☐ 統合 ☐ 分割		
		既存の事務事業		
再編後の事務事業				
		(内容)		
		削減額見込(概算)		千円
(3)公平性	①事業規模・サービス水準	環境変化や他の自治体等との比較により、当市の事業規模やサービス水準の可否を検証し、判断理由を記入 ☒ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 他の自治体では、松くい虫被害木自主駆除・薬剤防除及び地域花壇設置について補助金交付していませんが、安城市の木であるクロマツの保全のため継続実施すべきと考えます。		
	②受益者負担	受益者負担の適否を検証し、判断の理由を記入 ☐ ある ☐ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 ☒ ない ☒ 問題ない ☐ 検討必要		
		全額補助でないため、一般財源をもって実施することが適当であると考えます。		
「改善の必要性」の評価		☐ 有 ☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 目標 年度 ☒ 無(現状維持)		

平成28年度事務事業総点検 評価シート

Action【今後の方向性】

改善取組	課題	活動実績・成果・事業評価の内容を踏まえて記入 樹林・樹木保全事業について周知されていないと、大切に保護されてきた樹林、樹木を失ったり、松くい虫の被害にあったマツを放置することで、安城市の木でもあるクロマツの保全ができなくなる恐れがあります。		
	改善取組	上記課題に対する平成28年度における改善取組 樹林・樹木保全事業について、広報やホームページ等でPRを実施していきます。		
主管課評価 (再掲)	事業の必要性		改善の必要性	
	必要性が低い	必要性が高い		
	☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 0 年度 ☐ D 廃止困難	☒ E 継続	☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 ☒ 現状維持	目標 平成 0 年度
評価の総括	樹林・樹木保全事業について、さらにPRを行ない民有地緑化の保全に努めていきます。			

平成28年度事務事業総点検 評価シート

事業番号	557	所属	都市整備部公園緑地課花とみどりの係				起案者	古庄朋子
事業名	花とみどりの普及事業						決裁者	榊原慶治
事業区分	☐	義務的	☐	経常的	☒	政策的	連絡先	0566-71-2244
							内線	2353
事務事業の 分類	☐	企画計画立案	☐	調査・研究	☐	規制・指導	☐	育成・支援・相談
	☐	内部管理	☒	広報・普及啓発	☐	徴収・収納	☒	補助・助成・手当・サービス給付
	☐	施設管理	☐	窓口、受付	☐	用地取得・処分	☐	検査・審査・監査
	☐	施設設計・建設	☒	イベント・講座	☐	現業業務	☐	その他

Plan【事業概要】

総合計画体系	第7次		3-1-1-1-1		予算科目	会計	一般会計	
	第8次		4-1-④			款	40	土木費
						項	20	都市計画費
						目	15	緑化事業費
市長マニフェスト	☐	該当	☒	非該当	H28当初予算説明書該当ページ			245
実施計画	☐	該当	☒	非該当				
総合計画以外の計画	安城市緑の基本計画							
根拠法令	無							
議会答弁	無							
陳情・市民要望	無							
実施方法	直営		委託先					
実施期間	開始		昭和 55 年度			終期		平成 年度 ☒ なし
求める成果 (目的)	誰(受益者)が				～になる			
	市民が				自然とふれあえ住み良い生活環境のもとで生活できる			
事務事業の内容 (手段)	生垣等設置奨励、緑の街並み推進及び市民参加緑づくりについて補助金の交付を行ないます。 緑化推進のため、苗木や種子を地域へ配布したり、ガーデニングコンテストの支援を行ないます。							
事務の内容	生垣等設置奨励、緑の街並み推進及び市民参加緑づくりについて、補助申請の審査、決定、交付 苗木や種子の配布 ガーデニングコンテストの開催案内、写真の掲示							

Do【事業費(千円)、事業実績(活動・成果)】

年間事業費等推移	No	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
			実績	実績	実績	予算
年間事業費等推移	歳出	① 事業費 (千円)	10,841	21,344	18,281	15,415
		需用費	1,032	1,612	1,530	1,615
		役務費				
		委託料				
		使用料及び賃借料				
		負担金、補助及び交付金	9,809	19,732	16,751	13,800
		その他				
	②	人件費	2,520	1,890	1,890	630
		正規職員 (人)	0.4	0.3	0.3	0.1
		臨時職員人件費 (千円)				
	③	年間経費(①+②) (千円)	13,361	23,234	20,171	16,045
	歳入	④ 特定財源(市税等の一般財源以外) (千円)	9,801	19,675	16,580	13,000
		国庫・県支出金 (千円)	9,801	19,675	16,580	13,000
		受益者負担金 (千円)				
		その他 (千円)				
	⑤	一般財源(③-④) (千円)	3,560	3,559	3,591	3,045

平成28年度事務事業総点検 評価シート

活動実績	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度計画			
	生垣等設置奨励(1件)	生垣等設置奨励(4件)	生垣等設置奨励(0件)	生垣等設置奨励(5件)			
	緑の街並み推進(2件)	緑の街並み推進(4件)	緑の街並み推進(3件)	緑の街並み推進(5件)			
	市民参加緑づくり(1件)	市民参加緑づくり(3件)	駐車場緑化(1件)	駐車場緑化(3件)			
	ガーデニングコンテスト(67件)	ガーデニングコンテスト(42件)	市民参加緑づくり(5件) ガーデニングコンテスト(53件)	市民参加緑づくり(1件) ガーデニングコンテスト(50件)			
成果	成果指標	単位	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	ガーデニングコンテスト参加により、民有地の緑化が推進される件数	件	目標	60	70	50	50
			実績	67	42	53	
			目標				
			実績				

Check【事業評価】

(1)「事業の必要性」の検証・評価

(1)必要性	①行政関与の必要性	義務的な事務事業及び経常的な事務事業か ☒ いいえ	→	④「事業の必要性」の評価 必要性が高い ☒ E 継続 ※2「改善の必要性」の評価へ
	②特定項目	☐ 国・県・民間事業者等が同様のサービスを行っている ☐ 社会情勢の変化等により市民ニーズの必要性が低下している事業や市民ニーズを把握しておらずニーズが不明な事業である	→	
	③第8次総合計画との関連性	第8次総合計画に体系付けられているか ☐ いいえ	→	
	④「事業の必要性」の評価	☐ 廃止 必要性が低い ☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 年度 ☐ D 廃止困難(必要性を再評価)		
⑤事業を廃止した場合の影響・廃止困難な理由など				

※④で、A～Dのいずれを選択した場合も、⑤は必須。

⑤記載後 A～Cを選択している場合 → Action【今後の方向性】へ
 Dを選択している場合 → 2「改善の必要性」の検証・評価以降、すべて記載

平成28年度事務事業総点検 評価シート

(2)「改善の必要性」の検証・評価

(1)有効性	①目標に対する進捗状況	事業実施により意図した成果が得られているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 順調 ☐ 不十分 生垣等設置奨励、緑の街並み推進及び市民参加緑づくりへ、随時、補助金申請があり緑化推進に取り組んでいます。		
	②成果向上の余地	今以上に成果が向上する可能性があるか検証し、判断の理由を記入 ☒ ない ☐ ある 現状ですでに十分な成果をあげていると考えます。		
	③上位施策への貢献度	事業実施により上位の施策の実現に貢献しているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 高い ☐ 低い 民有地の緑化を推進したり、また、市民が緑にふれあう取組みは重要と考えます。		
(2)効率性	①民間活力等の活用	外部委託や指定管理者制度の導入、NPO等の活用による事業実施が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 市の内部事務であるため、委託等に馴染まないと考えます。		
	②事業費の削減	現在の成果水準のまま事業費の削減が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 緑あふれる街並み形成を推進させるため、現状の事業費が必要と考えます。		
	③事業の効率化・簡素化	実施方法の見直しや創意工夫により、事業の効率化・簡素化の可否を検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 すでに事務の効率化、簡素化が十分に行われており、これ以上の事業の効率化は困難と考えます。		
	④事務事業のスリム化	事務事業の統合や分割により、効果の向上を図ることができるか。できる場合は内容を記入 ☒ ない ☐ 統合 ☐ 分割		
		既存の事務事業		
	再編後の事務事業			
		(内容)		
		削減額見込(概算)		千円
(3)公平性	①事業規模・サービス水準	環境変化や他の自治体等との比較により、当市の事業規模やサービス水準の可否を検証し、判断理由を記入 ☒ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 他の自治体と同様に民有地の緑化を推進させる取組みとして継続実施すべきと考えます。		
	②受益者負担	受益者負担の適否を検証し、判断の理由を記入 ☐ ある ☐ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 ☒ ない ☒ 問題ない ☐ 検討必要		
		一般財源をもって実施することが適当であると考えます。		
「改善の必要性」の評価		☐ 有 ☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 目標 年度 ☒ 無(現状維持)		

平成28年度事務事業総点検 評価シート

Action【今後の方向性】

改善取組	課題	活動実績・成果・事業評価の内容を踏まえて記入 生垣等設置奨励、緑の街並み推進及び市民参加緑づくりについて、いま以上に緑あふれる街並みの形成を推進するためにも継続的なPRを行っていく必要があると考えます。		
	改善取組	上記課題に対する平成28年度における改善取組 花とみどりの普及事業について、広報やホームページ等でPRを実施していきます。		
主管課評価 (再掲)	事業の必要性		改善の必要性	
	必要性が低い	必要性が高い		
	☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 0 年度 ☐ D 廃止困難	☒ E 継続	☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 ☒ 現状維持	目標 平成 0 年度
評価の総括	現状の成果にとらわれず、いま以上に緑あふれる都市景観を形成するためPRを行なっていきます。			

平成28年度事務事業総点検 評価シート

事業番号	558	所属	都市整備部公園緑地課花とみどりの係				起案者	鈴木淳志
事業名	緑のネットワーク事業						決裁者	榊原慶治
事業区分	☐	義務的	☐	経常的	☒	政策的	連絡先	0566-71-2244
							内線	2353
事務事業の 分類	☐	企画計画立案	☒	調査・研究	☐	規制、指導	☐	育成・支援・相談
	☐	内部管理	☐	広報・普及啓発	☐	徴収・収納	☐	補助・助成・手当・サービス給付
	☒	施設管理	☐	窓口、受付	☐	用地取得・処分	☐	検査・審査・監査
	☐	施設設計・建設	☐	イベント・講座	☐	現業業務	☐	その他

Plan【事業概要】

総合計画体系	第7次		3-1-1-3-3		予算科目	会計	一般会計	
	第8次	4-1-①		款		40	土木費	
				項		20	都市計画費	
				目		15	緑化事業費	
市長マニフェスト	■	該当	□	非該当	H28当初予算説明書該当ページ			245
実施計画	■	該当	□	非該当				
総合計画以外の計画	安城市緑の基本計画							
根拠法令	無							
議会答弁	無							
陳情・市民要望	無							
実施方法	全部委託		委託先	民間企業				
実施期間	開始		平成 元 年度			終期	平成 年度 ■ なし	
求める成果 (目的)	誰(受益者)が				～になる			
	道路利用者や沿線周辺住民が				良好な生活環境になる			
事務事業の内容 (手段)	業務委託によりフラワーロードや明治緑道の樹木剪定・防除・除草等を実施して適正な維持管理を行います。 半場川散策路の整備方針を検討していきます。							
事務の内容	フラワーロードや明治緑道の樹木剪定、防除、除草、緑地帯清掃、パトロール等 半場川散策路の整備方針検討							

Do【事業費(千円)、事業実績(活動・成果)】

年間事業費等推移	No	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
			実績	実績	実績	予算
年間事業費等推移	歳出	① 事業費 (千円)	91,814	126,471	148,414	154,900
		需用費	1,411	1,373	1,225	1,735
		役務費	42	77	45	113
		委託料	90,361	125,021	147,144	153,052
		使用料及び賃借料				
		負担金、補助及び交付金				
		その他				
	②	人件費	4,410	5,040	6,300	5,670
		正規職員 (人)	0.7	0.8	1.0	0.9
		臨時職員人件費 (千円)				
	③	年間経費(①+②) (千円)	96,224	131,511	154,714	160,570
	歳入	④ 特定財源(市税等の一般財源以外) (千円)	21,000	21,000	26,534	26,500
		国庫・県支出金 (千円)	21,000	21,000	26,534	26,500
		受益者負担金 (千円)				
		その他 (千円)				
		⑤ 一般財源(③-④) (千円)	75,224	110,511	128,180	134,070

平成28年度事務事業総点検 評価シート

活動実績	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度計画			
	緑道樹木等管理 (剪定(1回)、防除(随 時)、除草(3回)、緑地帯 清掃(1回)、パトロール(1 3回)) 修景施設修繕	緑道樹木等管理 (剪定(1回)、防除(随 時)、除草(3回)、緑地帯 清掃(1回)、パトロール (13回)) 修景施設修繕	緑道樹木等管理 (剪定(1回)、防除(随 時)、除草(3回)、緑地帯 清掃(1回)、パトロール (13回)) 修景施設修繕	緑道樹木等管理 (剪定(1回)、防除(随 時)、除草(2回)、緑地帯 清掃(1回)、パトロール (13回)) 樹木診断(7,860本) 修景施設修繕 半場川散策路整備方針検討 業務			
成果	成果指標	単位	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	ネットワークのみどりを守る団 体数	団体	目標	25	26	27	27
			実績	24	24	24	
			目標				
			実績				

Check【事業評価】

(1)「事業の必要性」の検証・評価

(1)必要性	①行政関 与の必要 性	義務的な事務事業及び経常的な事務事業か ■ いいえ	→	④「事業の必要性」 の評価
	②特定項目	☐ 国・県・民間事業者等が同様のサービスを行っている ☐ 社会情勢の変化等により市民ニーズの必要性が低下して いる事業や市民ニーズを把握しておらずニーズが不明な 事業である ☐ 該当する	→	
	③第8次総 合計画と の関連性	第8次総合計画に体系付けられているか ■ いいえ	→	
		☐ はい ☐ はい ☐ はい		
④「事業の必要性」 の評価		☐ 必要性が高い ☒ E 継続 ※2「改善の必要性」の 評価へ		
⑤事業を廃止した場合の 影響・廃止困難な理由な ど		☐ 廃止 ☐ 必要性が低い ☐ D 廃止困難(必要性を再評価) ☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 年度		

※④で、A～Dのいずれを選択した場合も、⑤は必須。

⑤記載後 A～Cを選択している場合 → Action【今後の方向性】へ
Dを選択している場合 → 2「改善の必要性」の検証・評価以降、すべて記載

平成28年度事務事業総点検 評価シート

(2)「改善の必要性」の検証・評価

(1)有効性	①目標に対する進捗状況	事業実施により意図した成果が得られているか検証し、判断の理由を記入 ☐ 順調 ☒ 不十分 ウォーキングやランニング、自転車といった健康志向のなか、多くの市民に利用され親しまれている緑道の除草回数が不足していると考えられます。		
	②成果向上の余地	今以上に成果が向上する可能性があるか検証し、判断の理由を記入 ☒ ない ☐ ある 現状ですでに十分な成果をあげていると考えますが、樹木の徒長枝や雑草により街並みを彩る都市景観が損なわれたり、交通安全や防犯上においても大きな支障が生じるため、適正な管理が必要です。		
	③上位施策への貢献度	事業実施により上位の施策の実現に貢献しているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 高い ☐ 低い 花とみどりにあふれた街並みを形成するためにも、フラワーロードや緑道の樹木管理は重要な取組みです。また、歩きたくなる空間となるよう、油ヶ淵水辺公園からデンパークまでの散策路整備について検討していきます。		
(2)効率性	①民間活力等の活用	外部委託や指定管理者制度の導入、NPO等の活用による事業実施が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 多くの業務を外部委託しています。		
	②事業費の削減	現在の成果水準のまま事業費の削減が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 樹木管理業務については、災害時に備え1業者1業務といった入札条件を変更することで民間事業者間の競争を高め契約金額が低減するよう努めます。		
	③事業の効率化・簡素化	実施方法の見直しや創意工夫により、事業の効率化・簡素化の可否を検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 すでに事務の効率化、簡素化が十分に行われており、これ以上の事業の効率化は困難と考えます。		
	④事務事業のスリム化	事務事業の統合や分割により、効果の向上を図ることができるか。できる場合は内容を記入 ☒ ない ☐ 統合 ☐ 分割		
		既存の事務事業		
再編後の事務事業				
		(内容)		
		削減額見込(概算)		千円
(3)公平性	①事業規模・サービス水準	環境変化や他の自治体等との比較により、当市の事業規模やサービス水準の可否を検証し、判断理由を記入 ☐ 適正 ☐ 過大 ☒ 過小 他の自治体も同様に緑道樹木管理を実施しておりますが、都市景観や交通安全等に配慮した場合、現在、年2回の除草を行っていますが年3回は必要と考えます。		
	②受益者負担	受益者負担の適否を検証し、判断の理由を記入 ☐ ある ☐ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 ☒ ない ☒ 問題ない ☐ 検討必要		
		一般道路・緑道の樹木管理であるため、一般財源をもって実施することが適当であると考えます。		
「改善の必要性」の評価		☒ 有 ☐ 見直し ☒ 拡充 ☐ 縮小・統合 ☐ 無(現状維持) 目標 29 年度		

平成28年度事務事業総点検 評価シート

Action【今後の方向性】

改善取組	課題	活動実績・成果・事業評価の内容を踏まえて記入 新規緑道の増加に対し、事業費を抑制しながら市民満足度を向上させる取組が必要です。		
	改善取組	上記課題に対する平成28年度における改善取組 樹木維持管理業務において高木の樹木診断を行い、枯木や腐朽菌に感染した樹木等について適正な樹木管理に取組み、市民満足度の向上に努めます。 歩きたくなる空間となるよう、油ヶ淵水辺公園からデンパークまでの散策路整備について検討していきます。		
主管課評価 (再掲)	事業の必要性		改善の必要性	
	必要性が低い ☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 0 年度 ☐ D 廃止困難	必要性が高い ☒ E 継続	☐ 見直し 目標 ☒ 拡充 平成 29 年度 ☐ 縮小・統合 ☐ 現状維持	
評価の総括	枯木や腐朽病の感染した危険樹木の伐採や混み入った場所の間伐等の不用木の撤去や、入札条件の見直しによる民間事業者間の競争を高めて事業費の削減を図ります。また、油ヶ淵水辺公園からデンパークまでの散策路整備の推進に努めます。			

平成28年度事務事業総点検 評価シート

事業番号	559	所属	都市整備部公園緑地課公園整備係				起案者	芝 明美
事業名	緑化協働推進事業						決裁者	榊原慶治
事業区分	☐	義務的	☐	経常的	☒	政策的	連絡先	0566-76-1111
							内線	2354
事務事業の 分類	☐	企画計画立案	☐	調査・研究	☐	規制、指導	☐	育成・支援・相談
	☐	内部管理	☐	広報・普及啓発	☐	徴収・収納	☐	補助・助成・手当・サービス給付
	☐	施設管理	☐	窓口、受付	☐	用地取得・処分	☐	検査・審査・監査
	☐	施設設計・建設	☐	イベント・講座	☐	現業業務	☒	その他

Plan【事業概要】

総合計画体系	第7次	3-1-1-1-1		予算科目	会計	一般会計	
	第8次	4-1-④			款	40	土木費
					項	20	都市計画費
					目	15	緑化事業費
市長マニフェスト	☐	該当	☒	非該当	H28当初予算説明書該当ページ		245
実施計画	☐	該当	☒	非該当			
総合計画以外の計画							
根拠法令	有	安城市緑化条例					
議会答弁	無						
陳情・市民要望	無						
実施方法	直営		委託先				
実施期間	開始	平成 元 年度			終期	平成 年度	☒ なし
求める成果 (目的)	誰(受益者)が				～になる		
	緑化推進を市民と協働で行うことで市民が				緑化に対する意識を高めることになる		
事務事業の内容 (手段)	緑化の啓発、緑の募金、緑化推進のための情報提供を行います。						
事務の内容	緑化審議会で、保護樹木・保全地区の指定をします。 緑の募金を行います。						

Do【事業費(千円)、事業実績(活動・成果)】

年間事業費等推移	No	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
			実績	実績	実績	予算
年間事業費等推移	歳出	① 事業費 (千円)	76	61	54	110
		需用費	23	1	1	27
		役務費				
		委託料				
		使用料及び賃借料				
		負担金、補助及び交付金				
		その他	53	60	53	83
	②	人件費	5,670	2,520	5,670	9,450
		正規職員 (人)	0.9	0.4	0.9	1.5
		臨時職員人件費 (千円)				
	③	年間経費(①+②) (千円)	5,746	2,581	5,724	9,560
	歳入	④ 特定財源(市税等の一般財源以外) (千円)	0	0	0	0
		国庫・県支出金 (千円)				
		受益者負担金 (千円)				
		その他 (千円)				
	⑤	一般財源(③-④) (千円)	5,746	2,581	5,724	9,560

平成28年度事務事業総点検 評価シート

活動実績	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度計画			
	緑化審議会(1回)開催	緑化審議会(1回)開催	緑化審議会(1回)開催	緑化審議会(1回)開催			
	緑の募金(4～5月)	緑の募金(4～5月)	緑の募金(4～5月)	緑の募金(4～5月)			
成果	成果指標	単位	年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	「緑の募金」募金金額	万円	目標	830	830	830	830
			実績	841	811	804	
			目標				
			実績				

Check【事業評価】

(1) 「事業の必要性」の検証・評価

(1)必要性	①行政関与の必要性	義務的な事務事業及び経常的な事務事業か ☐ いいえ	☐ はい	④「事業の必要性」の評価 必要性が高い ☒ E 継続 ※2「改善の必要性」の評価へ
	②特定項目	☐ 国・県・民間事業者等が同様のサービスを行っている ☐ 社会情勢の変化等により市民ニーズの必要性が低下している事業や市民ニーズを把握しておらずニーズが不明な事業である	☒ 該当しない	
		☐ 該当する		
	③第8次総合計画との関連性	第8次総合計画に体系付けられているか ☐ いいえ	☐ はい	
④「事業の必要性」の評価		☐ 廃止 必要性が低い ☐ D 廃止困難(必要性を再評価) ☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 年度		
⑤事業を廃止した場合の影響・廃止困難な理由など				

※④で、A～Dのいずれを選択した場合も、⑤は必須。

⑤記載後 A～Cを選択している場合 → Action【今後の方向性】へ

Dを選択している場合 → 2「改善の必要性」の検証・評価以降、すべて記載

平成28年度事務事業総点検 評価シート

(2)「改善の必要性」の検証・評価

(1)有効性	①目標に対する進捗状況	事業実施により意図した成果が得られているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 順調 ☐ 不十分 目標とする募金額は高い目標として掲げているため、未達成ではありますが、その募金額は県内2位(H26)となっているため、順調に推移していると考えます。			
	②成果向上の余地	今以上に成果が向上する可能性があるか検証し、判断の理由を記入 ☒ ない ☐ ある 今後とも、市民へは広報等で周知し、企業へは協力を得るためのPRをしていきます。			
	③上位施策への貢献度	事業実施により上位の施策の実現に貢献しているか検証し、判断の理由を記入 ☒ 高い ☐ 低い 総合計画に掲げる目標に貢献しています。			
(2)効率性	①民間活力等の活用	外部委託や指定管理者制度の導入、NPO等の活用による事業実施が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 市が直接実施すべき事業であるため、委託等に馴染まないと考えます。			
	②事業費の削減	現在の成果水準のまま事業費の削減が可能か検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 既に事業費の削減が十分に行われており、これ以上の見直しが困難です。			
	③事業の効率化・簡素化	実施方法の見直しや創意工夫により、事業の効率化・簡素化の可否を検証し、判断の理由を記入 ☒ 不可能 ☐ 可能 一般市民の募金のため、効率化・簡素化の見直しは困難です。			
	④事務事業のスリム化	事務事業の統合や分割により、効果の向上を図ることができるか。できる場合は内容を記入 ☒ ない ☐ 統合 ☐ 分割			
		既存の事務事業			
		再編後の事務事業			
		(内容)			
		削減額見込(概算)	千円		
(3)公平性	①事業規模・サービス水準	環境変化や他の自治体等との比較により、当市の事業規模やサービス水準の可否を検証し、判断理由を記入 ☒ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 募金額は、県内2位(H26)を占めています。			
	②受益者負担	受益者負担の適否を検証し、判断の理由を記入 ☐ ある ☐ 適正 ☐ 過大 ☐ 過小 ☒ ない ☒ 問題ない ☐ 検討必要			
		交付金をもって実施するため適切であると考えます。			
「改善の必要性」の評価		☐ 有 ☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 目標 年度 ☒ 無(現状維持)			

平成28年度事務事業総点検 評価シート

Action【今後の方向性】

改善取組	課題	活動実績・成果・事業評価の内容を踏まえて記入 募金額の減が見受けられます。		
	改善取組	上記課題に対する平成28年度における改善取組 市民へは広報等で周知し、企業へは協力を得るためのPRをします。		
主管課評価 (再掲)	事業の必要性		改善の必要性	
	必要性が低い	必要性が高い		
	☐ A 直ちに廃止 ☐ B 30年度までに廃止 ☐ C 33年度までに廃止 目標 0 年度 ☐ D 廃止困難	☒ E 継続	☐ 見直し ☐ 拡充 ☐ 縮小・統合 ☒ 現状維持	目標 平成 0 年度
評価の総括	事業の必要性も高く、また事業改善の必要性はないと判断しました。			